



# 島根半島・宍道湖中海 ジオパーク通信



出雲国風土記の  
自然と歴史に出合う大地

2023.02  
Vol.4

会員紹介・島根県立宍道湖自然館ゴビウス／ジオサイト見どころ紹介・玉造温泉 1  
協議会の活動／ガイド講座、防災・減災シンポジウムの開催 2  
春のアクティビティ紹介・カヤックツアー／Mine 秋吉台ジオパーク紹介 3  
松江ビターセンターから／ジオブランド商品紹介 4

## 協議会会員の紹介 島根県立宍道湖自然館ゴビウス



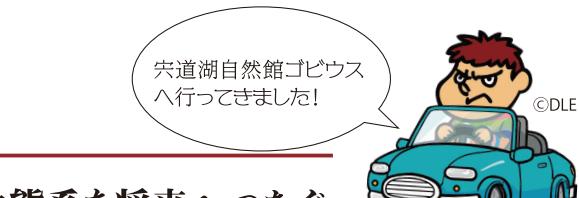
島根県立宍道湖自然館ゴビウス  
業務管理課企画推進係 係長

**中野 浩史さん**

希少な水辺の環境とそこに育まれる生態系を将来へつなぐ  
宍道湖自然館ゴビウスは宍道湖・中海と河川の生きもの200種、1万点を展示する体験学習型の水族館で、内水面に生息する身近な、かつ希少な水生生物を見ることができます。展示している魚類は当館の飼育員が現地に出向いて採集したり、地元の漁師さんからいただいたものというローカルに徹したもので、しまねレッドデータブック掲載の絶滅が危惧される魚類の保護、繁殖にも取り組んでいます。小中学生や園児の来館が多いこともあり、小さいお子さんの目線からもよくわかるよう水槽を低くしたり、湖沼や河川

の環境をジオラマで再現し外光を取り入れるなど展示にも工夫しています。特に見ていただきたいのは「シラウオ水槽」で、繊細で短命な魚のため飼育が非常に難しいとされていましたが、ゴビウスでは人工ふ化増殖に成功し通年展示を可能としました。色鮮やかにきらめくシラウオがいつでも見られるのは全国でもここだけです。

宍道湖・中海エリアは淡水・汽水・海水という異なった水質環境が凝縮された魅力的なところです。生きものに多様性があり、特に島根半島の河川では上流・中流・下流の違いや川の成り立ちをコンパクトに学ぶことができます。例えば、地元小学校から毎年のように依頼され、川の水質調査で講師として出かけている唐川川などは河川規模や自然度、安全面の視点から見ても優れています。私たちはこうした環境や生態系を将来にわたって残し継続させることが大切であり、未来の子どもたちにも同じ光景を見てほしいと願いながら日々仕事にあたっています。皆様もぜひ宍道湖自然館ゴビウスで島根県内水面の多様な水生生物の世界に触れてみてください。



エントランスに設置された立体地形模型が出迎えます。



館内には大小 58 基の水槽があります。宍道湖・中海ジオラマ、河川ジオラマは展示のハイライトとなっています。

3月 15 日～5月 8 日開催「特別展／フクいっぽいしづくぶくワールド」  
(火曜日休館・祝日の場合翌平日が休館)

ジオパークの見どころ、  
ジオサイトを紹介!



## ジオサイト見どころ紹介 シリーズ 4 玉造温泉 (たまつくりおんせん)



まがたま橋から望む玉造温泉



玉造温泉の姫神広場に並ぶ灯ろう

出雲平野、宍道湖、中海の南方に連なる丘陵山地帯には大陸分裂から日本海拡大、そして日本列島形成へと至る多様な時代の火山岩や堆積岩が分布しています。温泉もこのエリアに数多く自噴、なかでも玉造温泉は島根県を代表する温泉地として知られています。玉造という名の由来は、温泉街の東にある花仙山(標高199m)から産出される碧玉や瑪瑙、水晶、滑石などを用いて古墳時代前期から平安時代前期にかけて玉類の製作が盛んに行われていたことにちなむものです。碧玉や瑪瑙は風化した安山岩の中に脈状に形成されるもので、地位や身分を表す装飾、邪惡なものを退ける護身に使われる勾玉、管玉などに加工され、朝廷で出雲国造が神賀詞を奏上するときに出雲石として献上された由緒あるものです。

玉造温泉は奈良時代に開湯したとされ、「出雲国風土記」には「一たび灌げば形容端正しく、再び沐すれば万病悉く除ゆ」と記され「神の湯」と呼ばれていました。広く一般に利用されるようになったのは大正末頃からのようです。玉造温泉をジオサイトの視点から見直し、太古の息吹を感じながら一浴びしてみるのも一興です。

かたちきらきら



## 協議会の活動 はじめの一歩コースと認定ガイドコース



さあフィールドワーク開始です



熔岩の島、桂島フィールドワーク



日本ジオツーリズム協会の福島会長のオンライン講座



石を並べて岩石の特徴を学ぶ

島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会では、出雲国ジオガイドの会の協力を得て毎年認定ジオガイドの養成事業を行っています。

この養成事業は初級講座「はじめの一歩コース」と上級講座「認定ガイドコース」の2講座あり、ジオパークやジオガイドに興味がある方ならどなたでも受講することができます。「はじめの一歩コース」では、ジオパークの概要から当ジオパークの地質や植物、文化について学びます。また桂島と日御崎のジオサイトを訪れ、肌で大地を感じることができます。

「はじめの一歩コース」をすべて修了し、本格的にジオガイドを目指す方は「認定ガイドコース」を受講できます。さらに深い知識だけではなく、ガイド手法などジオガイドに必要なスキルを学んでいくことができます。

ここ2年は平均年齢45歳と若い世代の受講が増えました。職業は地域おこし協力隊員や公務員、漁業関係、観光関係と様々で、その多くが「単に興味がある」というよりも「これから的人生の選択肢の1つ」としてジオガイドを目指しているようです。ジオパーク活動は地域住民と一緒に取り組まなければ、未来に繋げることが難しいと考えています。そういう意味で、若い人達にジオガイドを目指してもらえるのは大変嬉しいことです。

昨年度の募集チラシではジオガイドを「地球のことば伝え人」と紹介しました。これは「ジオガイド」をとても的確に表現しており、地質遺産から動植物、人との繋がりを読み解き、ジオツアーを通じて楽しみながら未来に向けて伝えていくことができる、そのようなジオガイドが今後増えていってほしいと願っています。

何だか壮大な事を言っている感じですが、ジオパーク活動自体は実は誰にでもできるものです。その1歩に、まずは「はじめの一歩コース」に参加してみませんか?

## 防災・減災シンポジウムの開催

12月17日(土)、ぐにびきメッセ(松江市)で『地域防災力の向上～ジオパークネットワークによる自然災害への備え～』をテーマにした防災・減災シンポジウムを開催し、約100名の来場がありました。

中川和之さん(時事通信社解説委員)の講演では、事前に視察された当ジオパークの写真を交えながら、ご自身の取材体験をもとにジオパークと地域が連携し、つながる力で地域防災力を向上していくことの大切さについて話していただきました。

パネルディスカッションでは、上定ジオパーク推進協議会会長(松江市長)をはじめ、地域の教育機関、企業、団体のほか、三陸ジオパークの方にパネリストとして参加いただき、防災・減災に関する取組発表や、課題、今後の取組について意見交換しました。

また、会場には13企業・団体による防災・減災、ジオパークについてのブース出展コーナーを設置し、来場者が関心を寄せしていました。

今後もジオパークと防災・減災との関わりについて普及啓発とともに、地域住民の皆様の防災・減災に対する意識向上につながる活動に取り組むことで、地域防災力の向上を推進します。

防災・減災シンポジウムを取材してきました!



パネルディスカッションの様子



当時の様子はこちらをご覧ください



上定会長が展示ブースを取材



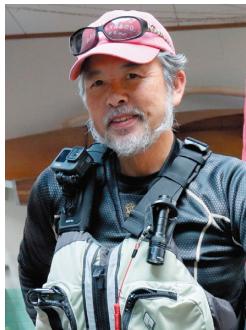
防災ドローンの展示



防災教育模型の展示

# 春のアクティビティ紹介 ゲストハウス「かたゑ庵」カヤックツアー

アクティビティ拠点の「かたゑ庵」で  
話を聞いてきたぞ!



ゲストハウスかたゑ庵  
縁結び人  
**青戸裕二さん**

アクティビティ拠点としてゲストハウス「かたゑ庵」を2019年8月にオーブンしました。

「片江は観光地ではないけれど、ありのままの自然や集落の景観があって、手に触れるもの、目に見えるものが新鮮です。そしてこの透明度の高い海が何より素晴らしい」といいます。湾内で20~30分ほどパドリングの練習をしてから片江半島や入り組んだ岩礁のある入江西側エリアへカヤックで向かうツアーは3月後半からシーズンインとなり、特に口コミで興味を持った全国各地からの客でにぎわいます。深い入り江に上陸して珈琲を楽しむ海カフェ、まるで海に浮かんでいるような感覚が楽しい透明カヤックなどオプションも豊富です。青戸さんはツアー客に片江の地質や風土、鳥類などの紹介が上手くできるようジオガイドの資格を取得しました。「地層や景観だけではないジオパークならではの魅力をカヤックツアーを通して伝えたい」と話してくれました。

フォトツーリズムも人気です!

かたゑ庵では青戸さんが古民家・ビーチ・美保関神社・青石畠通りなどでゲストを撮影するフォトツーリズムも行っています。自然な笑顔を引き出す、オーバープロデュースのない写真が好評です。

## Mine 秋吉台ジオパーク紹介

Mine秋吉台ジオパークは、山口県の中央部に位置する美祢市全域がエリアとして認定されています。約3億年前のサンゴ礁からできた石灰岩によるカルスト台地をはじめ、約2億年前の植物によってできた石炭や、約1億年前の火山活動によってできた銅山も当ジオパークの重要な地質遺産です。石灰岩の地域では秋吉台の地形を活かしたドリーネ耕作、石炭の地域では炭鉱のまちとして栄えた大嶺炭田、銅の地域では奈良の大仏に銅を供給した長登銅山といった、それぞれの地質・地形の上で様々な時代の異なる営みが見られるのも当ジオパークの特徴です。

その中でも、国定公園、特別天然記念物に指定されている秋吉台では、毎年2月の下旬に山焼きが実施されています。山焼きは、秋吉台上の約1,138ヘクタールに一斉に火を入れる日本最大規模の野焼きです。昔は伸びた雑草を燃やして新芽を育て、家畜のための採草などの目的で行われていましたが、現在では草原の維持と森林化を防止し景観を守るために、また、貴重な動植物の生息・生育環境を保全し、秋吉台を次世代に引き継ぐために今もなお行われ続けています。

当然ながら、広大な秋吉台の山焼きを1人で行うことはできません。地元の地域住民や学生、企業、自治体職員など様々な方と共に、山焼きの火入れや火入れ前の火道切りという作業を行っています。秋吉台の美しい景観は、人々の営みによって創り出され、そして地域住民などの手で守られてきました。

そんな秋吉台では、認定ジオガイドが毎日ジオツアーを催行しています。お越しの際はぜひジオツアーにご参加ください。



城壁のような柱状節理の岩肌をカヤックから間近に見る



フランス人観光客をガイドする青戸さん



狭い水路状の入り江は人気スポットのひとつ



お問い合わせ先  
ゲストハウスかたゑ庵  
松江市美保関町片江396  
TEL0852-55-8600

「Mine秋吉台ジオパーク」も  
すごいなあ!!



写真左上：大嶺炭田の地層、右上：長登銅山の銅鉱石 下：秋吉台



秋吉台山焼きの様子

# 松江ビズターセンターから

ここにきたら、ジオパークの博士になれます!



島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会  
ジオパーク専門員 島根大学名誉教授

野村律夫さん

着目し、ジオパークを楽しむことを目的に各種ツアーの開催やアクティビティ体験などの活動を行っています。また島根大学と連携し多様な観点での調査やフィールドワークを行い、地域の人々との交流の機会を持つことも私たちの重要な取り組みとなっています。

ジオパークの魅力を端的に言い表すのは難しいですが、例えば宍津海岸や片江湾は信仰や漁業、鉱山開発などを通じて、地形と人々との豊かな関わりをダイナミックに語りかけてくれます。地域住民の方たちにはありふれた光景かもしれませんのが、ジオパークという視点で見直せばどれも面白いものばかりです。みなさんもジオサイトに足を運んでいただき、大地と人の営みとの関係に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。「松江ビズターセンター」へはJR松江駅からの直通バスがあります。どうぞお気軽にいらしてください。

## ジオパークと地域・市民を結ぶ拠点施設



ジオパークを学び、楽しむための拠点「松江ビズターセンター」は加賀浦に面するマリンプラザしまねの2階にあり、専門員やジオガイドなどが交代で来館者を迎えていました。館内のパネル展示は、当ジオパークの全体の大地の成り立ちを伝えようとするもので、各エリアの地質や地形の特徴、見どころ、人々の営みや文化、生態系との関わりなど、「国引き神話」も交えて数多くの図版や写真などで紹介しています。パネルの全体構成や床のデザインを柱状節理の六角形をモチーフにするなど随所にこだわりを盛り込んでいるところも楽しんでください。

島根半島は多くの場所が国立公園に指定されており自然環境の保全や管理がなされていますが、ジオパークを推進する私たちは地形が育んだ特徴ある文化や風土に



子どもたちの学習用に野村さんが造った海底火山噴火モデル。  
マグマに見立てた風船が膨らみ割れて  
子どもたちの耳目を釘付けにします。



様々な岩石についての観察など学習コーナーも充実しています。



## ジオブランド商品をずらり取り揃え、玉造温泉街の人気スポット!



株式会社ちいきおこし代表取締役  
社☆ガール/神社ガールズ研究会会長

河野美知さん

かみわざ  
使った「神事おだし」、中海の赤貝を使い郷土料理を復活させた「赤貝めしの素」、美保関の伝統料理の鯖塩辛をオリーブオイル漬けにしたものや、観光土産用にパッケージを新しくした藻塩やクロモジ茶を開発しました。認定ジオガイドであり、社☆ガールとして神社めぐり情報発信やガイドとしても活躍する河野さん。「今後は松江野菜や伝統料理などを研究し商品開発につなげたい」と新たな地域の魅力づくりを楽しみながら実践されています。

### 編集後記

やっと1年、4号まで来ましたね。いかがでしたでしょうか。あらためて、ジオパークの魅力は、たくさんの人に関わっていただいてこそできていると実感しました。来年度に向かって読者の皆様からもおすすめの話題など声をお寄せください。お待ちしています。

T・M

発行者：島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

[松江市役所 ジオパーク推進室]

〒690-8540 島根県松江市末次町 86 番地  
TEL : 0852-55-5399 FAX : 0852-55-5070

E-mail : kuniibiki-geopark@city.matsue.lg.jp

[出雲市役所 政策企画課 ジオパーク係]

〒693-8530 島根県出雲市今市町 70 番地  
TEL : 0853-21-6612 FAX : 0853-21-6752

E-mail : seisaku@city.izumo.shimane.jp



島根半島・宍道湖中海ジオパーク 日本ジオパークネットワーク